

専門基礎分野（22単位）

人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	1単位	30時間
	解剖生理学Ⅱ	1単位	30時間
	解剖生理学Ⅲ	1単位	30時間
	生活を支えるからだ	1単位	30時間
疾病の成り立ちと回復の促進	生化学	1単位	30時間
	栄養学	1単位	30時間
	微生物学	1単位	30時間
	病理学	1単位	15時間
	病態治療論Ⅰ	1単位	30時間
	病態治療論Ⅱ	1単位	30時間
	病態治療論Ⅲ	1単位	30時間
	病態治療論Ⅳ	1単位	30時間
	病態治療論Ⅴ	1単位	30時間
	治療論概説Ⅰ	1単位	30時間
	治療論概説Ⅱ	1単位	15時間
	薬理学	1単位	30時間
	総合医療論	1単位	15時間
健康支援と社会保障制度	公衆衛生学Ⅰ	1単位	15時間
	公衆衛生学Ⅱ	1単位	15時間
	医療福祉論Ⅰ	1単位	30時間
	医療福祉論Ⅱ	1単位	15時間
	関係法規	1単位	30時間

専門基礎分野（22 単位）

1. 専門基礎分野の考え方

医療を取り巻く環境が変化している中、国民の医療や健康に対する意識も変化してきている。その変化に応じることができる、質の高い医療サービスの提供者としての能力が看護職には求められている。また、看護職においても看護の対象や家族の意思を尊重し QOL を重視しようという認識が浸透してきている。さらに医療は高度化、多様化している。

それに対応するために、人間の身体の構造や各器官が本来持っている機能や疾病の原因、治療についての理解、予防的な視点に基づいてアセスメントできる知識を学ぶ。看護の対象を生活者の視点で捉え、科学的な根拠をもとにして看護を提供していくための知識、健康の維持・増進・回復に向けて多職種と協働できる基礎的知識を養うことが求められている。

そのため、人体の構造や機能、人間の健康や健康障害の理解、健康を支援する施策や方法、関係する法規等について学ぶ。また、保健医療福祉の仕組みや看護職の役割を理解する内容とし、看護の基盤となる学びとする。

2. 目的

人体の構造と機能について系統立てて学び、健康維持の方法、疾病の成り立ちと回復の促進の方法、障害について理解する。また、看護の対象に対する健康支援と社会保障制度についての基礎的知識を養う。

3. 目標

- 1) 人体の構造と機能及び機能障害と回復の促進について学ぶ。
- 2) 健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を養う基礎的知識を学ぶ。
- 3) 看護の対象者への健康支援について基礎的知識を理解する。
- 4) 医療・看護の変遷と現状及び今後の動向について学ぶ。
- 5) 人々の健康を守るために必要な、保健医療福祉及び看護に関する法規について学ぶ。
- 6) 保健医療福祉の基本概念及び制度について学ぶ。
- 7) 保健医療福祉に係る職種の役割について学ぶ。

専門基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	解剖生理学Ⅰ 1 単位 30 時間 (細胞・呼吸・血液・免疫・皮膚・循環)		
開講時期	1 年次 前期		
担当教員	フラピエかおり	実務経験	有
<科目のねらい> 病気で苦しむ人たちを救う医療行為には、人体へのさまざまな介入が含まれる。人体の構造と機能についての正確な理解がなければ、その医療行為そのものが害悪をもたらすことになりかねない。解剖と生理学についての十分な理解なしでは現代の医療はなりたない。 <到達目標> 1. 正常な身体の形態と働きについて基礎的な知識を習得する。 2. 器官相互のつながりや身体全体の調和がどのように維持されているのかを理解する。			
授業計画・内容・担当教員			
1 回目	1. 構造からみた人体・人体のさまざまな器官	講義	
2 回目	1.素材から見た人体 2.ホメオスタシス	講義	
3 回目	1.呼吸器 1) 呼吸器の構造	講義	
4 回目	2) 内呼吸、外呼吸	講義	
5 回目	3) 呼吸器と呼吸運動	講義	
6 回目	4) ガスの交換とガスの運搬	講義	
7 回目	5) 呼吸の化学調節	講義	
8 回目	1. 循環 1) 循環器系の構成 (心臓・血管・リンパ)	講義	
9 回目	2) 心臓の構造・心臓の拍出機能	講義	
10 回目	3) 末梢循環系の構造	講義	
11 回目	4) 血液の循環の調節	講義	
12 回目	5) リンパとリンパ管	講義	
13 回目	1. 血液 1) 血液の組成と機能 血液凝固機序	講義	
14 回目	1. 身体機能の防御と適応 1) 免疫	講義	
15 回目	終了試験	講義	
評価方法	終了試験 (筆記 100%)		
受講生に対するメッセージ	・看護学生としての品格を維持し授業にのぞんでください。服装、髪の色等授業に適さない学生さんは授業参加をご遠慮していただく場合もあります。ご了承ください。 ・指定のテキストを忘れた場合、講義は受講できませんのでご了承ください。 ・毎回定着確認小テストを実施します。30 点以上が合格となります。小テスト不合格者は 1 回の小テスト不合格毎終了テストから 5 点減点します。		
テキスト	系統別看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 1 解剖生理学 医学書院 フラピエかおり 著 看護学生のための重要疾患ドリル 2024 メジカルフレンド社		
参考書			

専門基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	解剖生理学Ⅱ 1単位 30時間 (脳神経・眼科・耳鼻科・運動器・泌尿器・生殖器)		
開講時期	1年次 前期		
担当教員	鈴木康弘・大岩和博・遠藤志織・小倉跡夢 加藤秀幸・足立健敏・田村万寿美	実務経験	有
<科目のねらい> 病気で苦しむ人々を救う医療行為には、人体へのさまざまな介入が含まれる。人体の構造と機能についての正確な理解がなければ、その医療行為そのものが害悪をもたらすことになりかねない。解剖と生理学についての十分な理解なしでは現代の医療はなりたない。 <到達目標> 1. 正常な身体の状態と働きについて基礎的な知識を習得する。 2. 器官相互のつながりや身体全体の調和がどのように維持されているのかを理解する。			
授業計画・内容・担当教員			
1回目	1. 神経系の構造と機能	講義（鈴木）	
2回目	2) 脊髄と脳	講義（鈴木）	
3回目	3) 脊髄神経・4) 脳神経	講義（鈴木）	
4回目	5) 伝導路	講義（鈴木）	
5回目	構造と機能のまとめ	講義（田村）	
6回目	1. 目の構造と視覚	講義（大岩）	
7回目	1. 耳の構造と聴覚・平衡覚	講義（遠藤）	
8回目	1. 身体の支持と運動（骨・筋系） 1) 骨格とはどのようなものか 2) 骨の連結	講義（小倉）	
9回目	3) 骨格筋 4) 体幹と骨格と筋	講義（小倉）	
10回目	5) 上肢の骨格と筋	講義（小倉）	
11回目	6) 下肢の骨格と筋	講義（小倉）	
12回目	7) 頭頸部の骨格と筋	講義（小倉）	
13回目	1. 尿の生成（泌尿器系） 1) 排尿器 2) 尿の生成 3) 男性生殖器	講義（加藤）	
14回目	1. 生殖・発生のしくみ（生殖系） 1) 女性生殖器（生理周期・ホルモン）	講義（足立）	
15回目	2) 受精と胎児の発生（細胞分裂・染色体）	講義（足立）	
評価方法	終了試験（筆記 100%） 鈴木（25%） 大岩（10%） 遠藤（10%） 小倉（25%） 加藤（10%） 足立（20%）		
受講生に対するメッセージ	1単位 30時間の科目である。学習期間は、長く複数の講師によるオムニバス形式の講義体系となります。よって、各講師の講義内容を理解することが求められます。事前事後学習を行って十分な理解ができるよう取り組んでほしいです。 尚、講師の都合により、講義順番が多少ずれることがあります。掲載の回数目とはずれることがあります。		
テキスト	系統別看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 1 解剖生理学 医学書院		
参考書			

専門基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	解剖生理学Ⅲ 1 単位 30 時間 (消化器・口腔・内分泌・腎臓)		
開講時期	1 年次 前期		
担当教員	フラピエかおり	実務経験	有
<科目のねらい> 病気で苦しむ人たちを救う医療行為には、人体へのさまざまな介入が含まれる。人体の構造と機能についての正確な理解がなければ、その医療行為そのものが害悪をもたらすことになりかねない。解剖と生理学についての十分な理解なしでは現代の医療はなりたない。 <到達目標> 1. 正常な身体の形態と働きについて基礎的な知識を習得する。 2. 器官相互のつながりや身体全体の調和がどのように維持されているのかを理解する。			
授業計画・内容・担当教員			
1 回目	1. 消化器 1) 消化器の概観 口腔から食道までの構造	講義	
2 回目	2) 胃から大腸までの構造	講義	
3 回目	3) 膵臓、肝臓までの構造	講義	
4 回目	4) 栄養素の消化と吸収	講義	
5 回目	5) 栄養素の消化と吸収 +排便	講義	
6 回目	6) 肝臓の機能	講義	
7 回目	7) 肝臓の機能	講義	
8 回目	I. 内分泌 1) 内分泌とは (ホメオスタシス・正負のフィードバック)	講義	
9 回目	2) ホルモンの化学構造と作用機序	講義	
10 回目	3) ホルモン分泌の調整 神経性調節	講義	
11 回目	4) ホルモン分泌の調整 血液濃度 その他	講義	
12 回目	I. 腎臓 1) 腎臓の構造	講義	
13 回目	2) ネフロンの機能 レニンアンギオテンシアルドステロン系	講義	
14 回目	3) 排尿路	講義	
15 回目	終了試験	講義	
評価方法	終了試験 (筆記 100%)		
受講生に対するメッセージ	・看護学生としての品格を維持し授業にのぞんでください。服装、髪の色等授業に適さない学生さんは授業参加をご遠慮していただく場合もあります。ご了承ください。 ・指定のテキストを忘れた場合、講義は受講できませんのでご了承ください。 ・毎回定着確認小テストを実施します。30 点以上が合格となります。小テスト不合格者は 1 回の小テスト不合格毎終了テストから 5 点減点します。		
テキスト	系統別看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 1 解剖生理学 医学書院 フラピエかおり 著 看護学生のための重要疾患ドリル 2024 メジカルフレンド社		
参考書			

専門基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	生活を支えるからだ 1 単位 30 時間		
開講時期	1 年次 前期		
担当教員	勝治乃武子	実務経験	有
<科目のねらい> 日々の生活を支えるケアをするため、医学の枠組みでの「からだ」理解をベースに、生活行動の枠組みからの体を理解する。看護を学ぶにあたり、人間はどのような体の構造と機能（仕組み）を使って生きているのか、日常生活行動を営んでいるのか、さらにはからだの仕組みが障害された時、それが生きていることや日常生活行動にどう影響するのかを考えることで看護を必要としている対象に看護実践できる基本的知識となる。 <到達目標> ・学んだ解剖・生理学の知識を活かし看護学の視点でからだをみることができる。			
授業計画・内容・担当教員			
1 回目	1. 何のための生活行動か (1)生きているとはどういうことか (2)生命維持と生活行動	講義	
2 回目	1. 恒常性維持のための物質の流通 2. 恒常性のための調節機構	講義	
3 回目	1. 活動時のバイタルサインの変化	グループワーク	
4 回目			
5 回目	1. 活動時のバイタルサインの変化	グループワーク 発表	
6 回目	1. 動く	グループワーク	
7 回目	1. 動く	グループワーク	
8 回目	1. 動く	グループワーク	
9 回目	1. 動く	グループワーク 発表	
10 回目	1. 日常生活行動の疑問を解決する 食事 排泄 清潔 コミュニケーションなど	グループワーク	
11 回目	1. 日常生活行動の疑問を解決する 食事 排泄 清潔 コミュニケーションなど	グループワーク	
12 回目	1. 日常生活行動の疑問を解決する 食事 排泄 清潔 コミュニケーションなど	グループワーク	
13 回目	1. 日常生活行動の疑問を解決する 発表会	発表	
14 回目	1. 日常生活行動の疑問を解決する 発表会	発表	
15 回目	終了試験	筆記試験 解説	
評価方法	筆記試験 課題 参加度		
受講生に対するメッセージ	既習の解剖生理学の知識を活かし人間が日常生活を営んでいるのかを考えます。事象への関心を深め幅広く学問を探究する姿勢をもって臨んでほしい。		
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 1 解剖生理学 医学書院		
参考書	「看護 形態機能学 生活行動からみるからだ」菱沼典子 日本看護協会出版会		

専門基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	生化学 1 単位 30 時間	
開講時期	1 年次 前期	
担当教員	南 彰	
<科目のねらい> 生化学は生物を化学の視点から理解することを目指す学問である。医療の現場には、生化学によって説明される多くの現象が存在する。どのようにして医薬品が効くのか、どのようにして病気になるのか、どのようにして生命活動が維持されるのか、これらを理解するためには、生化学の知識を欠かすことはできない。ここでは、医療従事者（専門職業人）として必要な生命活動に対する基礎的な理解と適切な感覚を得ることを目指す。 <到達目標> ・生体を構成する糖質や脂質、タンパク質、核酸を中心に、構造と機能、および代謝について理解を深める。特に生物のエネルギー獲得のための代謝系を中心として理解する。		
授業計画・内容・担当教員		
1 回目	生化学を学ぶための基礎知識 1（生体の化学の基礎知識）	講義
2 回目	生化学を学ぶための基礎知識 2（細胞の構造と機能）	講義
3 回目	糖質の構造と機能	講義
4 回目	脂質の構造と機能	講義
5 回目	タンパク質の構造と機能	講義
6 回目	代謝の基礎と酵素・補酵素	講義
7 回目	糖質代謝 1（糖質の消化、吸収）	講義
8 回目	糖質代謝 2（糖質の分解）	講義
9 回目	糖質代謝 3（グリコーゲン代謝、ペントースリン酸経路、糖新生）	講義
10 回目	脂質代謝 1（脂質の消化、吸収、分解）	講義
11 回目	脂質代謝 2（脂質の合成）	講義
12 回目	タンパク質代謝	講義
13 回目	遺伝子の複製・転写・翻訳と核酸代謝	講義・演習
14 回目	細胞のシグナル伝達	講義
15 回目	試験	
評価方法	筆記試験（100%）	
受講生に対するメッセージ	講義は板書が中心になりますので、ノートを準備してください。生物受験でない学生にも理解できるように講義を展開するよう心がけています。特に、国家試験の出題範囲については重点的に対策を行います。解らない場合は講義中でも構いませんので、積極的に質問してください。	
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 2 生化学 医学書院	
参考書		

専門基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数		栄養学 1単位 30時間	
開講時期		1年次 前期	
担当教員		佐藤友紀・内田理恵	
<科目のねらい・到達目標> ・生命の維持、成長、及び臓器・組織の正常な機能の維持、エネルギー生産のために必要な栄養素とその適正量、合理的な摂取方法について理解する。			
授業計画・内容・担当教員			
1回目	1. 生命維持のための栄養の役割		講義（佐藤）
2回目	1. 栄養素の種類と働き-食品群および食品のエネルギー		講義（佐藤）
3回目	1. 栄養素の種類と働き-多量、微量栄養素		講義（佐藤）
4回目	1. 食物の消化と栄養素の吸収・代謝		講義（佐藤）
5回目	1. 生体内のエネルギー代謝		講義（佐藤）
6回目	1. 栄養ケア・マネジメント		講義（佐藤）
7回目	1. ライフステージと栄養 1) 乳児期 2) 幼児期 3) 妊娠・授乳期 4) 老年期		講義（佐藤）
8回目	1. 食事療法の位置づけ 1) 食事療法の意義 2) 医療保障制度と栄養食事療法 3) チーム医療と栄養食事療法 4) 栄養管理の方法 5) 病人食の特徴と種類		講義（内田）
9回目	1. 糖尿病の食事療法		講義（内田）
10回目	1. 循環器疾患の食事療法		講義（内田）
11回目	1. 腎臓病の食事療法		講義（内田）
12回目	1. 肝胆膵疾患の食事療法		講義（内田）
13回目	1. 消化器疾患と術前後の食事療法		講義（内田）
14回目	1. 高齢者の食事と特徴 呼吸器疾患の食事		講義（内田）
15回目	終了試験		
評価方法	終了試験 筆記試験 100%：佐藤（50%） 内田（50%）		
受講生に対するメッセージ	「食べることは生きること」。病者のみならず、健康を維持するために必要な栄養素。栄養素の役割、種類、体内での反応を理解することが、医療従事者としての基本です。 生活の中で、身近な存在です。自分や家族のことを考えると自ずと理解を深められると思います。看護師に対する社会の要望は強く、研究、学ぶ態度をもち、保健医療チームの一人として、相手の気持ちがわかる人間に成長してほしいです。		
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能3 栄養学 医学書院 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 医学書院		
参考書			

専門基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	微生物学 1 単位 30 時間	
開講時期	1 年次 後期	
担当教員	三宅正紀	
<科目のねらい> 病原微生物及び感染症に関する十分な知識を身につけ、看護実践における感染症の予防と治療に関して指導的な役割を担えるようになる。 <到達目標> ・様々な感染症の原因病原体及び病原因子、発症機構、予防・診断・治療法を説明できる。 ・生体防御免疫について説明できる。 ・様々な滅菌・消毒法の性質・適用を理解し、実践できる。		
授業計画・内容・担当教員		
1 回目	微生物学の概要及び歴史	講義
2 回目	細菌の性質（構造を含む）	講義
3 回目	真菌・原虫・ウイルスの性質	講義
4 回目	微生物感染の機構・感染の成立から発症後の経過まで	講義
5 回目	感染に対する生体防御機構 / 自然免疫	講義
6 回目	感染に対する生体防御機構 / 獲得免疫	講義
7 回目	感染源・感染経路からみた感染症	講義
8 回目	滅菌と消毒	講義
9 回目	感染症の検査と診断・治療	講義
10 回目	感染症の現状と対策（新興・再興感染症、院内感染、感染症法、標準予防策、ワクチン・予防接種等）	講義
11 回目	病原細菌と細菌感染症（1）	講義
12 回目	病原細菌と細菌感染症（2）	講義
13 回目	ウイルスとウイルス感染症（1）	講義
14 回目	ウイルスとウイルス感染症（2）	講義
15 回目	病原真菌と真菌感染症、病原原虫と原虫感染症/ 終了試験	講義・試験
評価方法	筆記試験 100%	
受講生に対するメッセージ	講義では日常生活、医療現場等での具体的な事例を挙げながら、なるべくわかりやすく解説するので、教科書の内容と照らし合わせてよく復習し、効率的な学習をすることを心掛けてほしい。	
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 4 微生物学（医学書院）	
参考書	感染制御の基本がわかる 微生物学・免疫学（羊土社） わかる！身につく！病原体・感染・免疫 改訂 3 版（南山堂） ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち③ 臨床微生物・医動物（メディカ出版）	

専門基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	病理学 1 単位 15 時間		
開講時期	1 年次 前期		
担当教員	石山純三	実務経験	有
<科目のねらい> 現代において医師・看護師などが行う医療行為は、個人的な考えや習慣、経験に基づいて行うのではなく、科学的な根拠に基づいて行うことが求められる。病理学は、臨床医学に科学的根拠を与える重要な土台となっている。まず、病気について、原因やなりたちを学び、その後各々の器官に生じる病気ごとに、原因や病気のなりたちなどの特徴を理解していく。 <達成目標> ・病理的状态の理解に必要な生体の反応と疾病のメカニズムをもとに病因・病態の特徴を理解する。			
授業計画・内容・担当教員			
1 回目	総論 1. 病理学で学ぶこと 1) 看護と病理学 2) 病気の原因 3) 病気の分類と病理学の学び方 1. 細胞・組織の損傷と修復・炎症 1) 細胞・組織の損傷と適応 2) 細胞・組織の損傷に対する反応としての炎症 3) 炎症の分類と治療	講義	
2 回目	1. 免疫 1) 免疫と免疫不全 2) アレルギーと自己免疫疾患 3) 移植と再生医療	講義	
3 回目	1. 感染症 1) 感染の成立と感染症の発症 2) 主な感染症 3) 感染症の治療・予防	講義	
4 回目	1. 循環障害 1) 循環器系概要 2) 浮腫 3) 充血とうっ血 4) 出血 5) 血栓症 6) 塞栓症 7) 虚血と梗塞 8) 側副循環による障害 9) ショック 10) 高血圧症 11) 播種性血管内凝固症候群	講義	
5 回目	1. 代謝障害 2. 老化と死	講義	
6 回目	1. 先天性異常と遺伝子異常	講義	
7 回目	1. 腫瘍	講義	
8 回目	終了試験		
評価方法	終了試験 筆記 100%		
受講生に対するメッセージ	講義内容が十分理解できるよう事前事後の学修を行い授業に臨んでほしい。		
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 1 病理学 医学書院		
参考書			

専門基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数		病態治療論Ⅰ（呼吸器・循環器系）1単位 30時間		
開講時期		1年次 後期		
担当教員		池田政輝・土屋一夫・明石拓郎 戸塚裕一・平井健揚	実務経験	有
<科目のねらい> 解剖生理で学んだ呼吸・循環器系の知識を臨床実践に結び付け統合し、特有の疾患を理解する。呼吸・循環器系の器官が人体のなかでどのような構造をなし、どのような役割を担うかを想起する。その後、その構造や機能が障害された状態（疾患）はどのような状態を示すのか学び、損なわれた機能の回復や失われた機能を補てんするにはどうすればよいか、治療や援助につなげる根拠を知る。 <到達目標> ・呼吸・循環器系の主な疾患の病態診断・治療と回復の促進について理解する。				
授業計画・内容・担当教員				
1回目	1.呼吸器系の疾患とその治療 1)呼吸不全		講義（池田）	
2回目	2)感染症		講義（池田）	
3回目	3)気道疾患 ①気管支喘息 ②慢性閉塞性肺疾患		講義（土屋）	
4回目	4)間質性肺炎		講義（土屋）	
5回目	5)胸膜疾患 気管支鏡検査		講義（土屋）	
6回目	6)呼吸調節に関する疾患		講義（明石）	
7回目	7)肺腫瘍 8)胸膜・縦隔・横隔膜の疾患		講義（明石）	
8回目	2.循環器系の疾患とその治療 1)虚血性心疾患		講義（平井）	
9回目	2)心不全		講義（平井）	
10回目	3)血圧異常		講義（平井）	
11回目	4)不整脈		講義（平井）	
12回目	5)弁膜症		講義（戸塚）	
13回目	6)心筋疾患		講義（戸塚）	
14回目	7)先天性心疾患		講義（戸塚）	
15回目	8)動脈系疾患 9)静脈系疾患		講義（戸塚）	
評価方法	終了試験 筆記100%：池田（40%） 平井（30%） 戸塚（30%）			
受講生に対するメッセージ	2領域の専門医師の講義によって構成されています。その合計点をもって単位認定の判断がなされます。事前事後の学修を行って十分な理解ができるよう取り組んでください。			
テキスト	系統別看護講座 専門分野 成人看護学2 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学3 循環器 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院			
参考書	病気がみえる 呼吸器 循環器 メディクメディア			

専門基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数		病態治療論Ⅱ（血液・リンパ・自己免疫・皮膚・生殖器系） 1 単位 30 時間	
開講時期		1 年次 後期	
担当教員		竹内隆浩・松本賢太郎 嶋津苗胤・江河由紀子・西前香寿	実務経験 有
<科目のねらい> 解剖生理で学んだ血液・リンパ・自己免疫・皮膚・生殖器系の知識を臨床実践に結び付け統合し、特有の疾患を理解する。血液・リンパ・自己免疫・皮膚・生殖器官が人体のなかでどのような構造をなし、どのような役割を担うかを想起する。その後、その構造や機能が障害された状態（疾患）はどのような状態を示すのか学び、損なわれた機能の回復や失われた機能を補てんするにはどうすればよいか、治療や援助につなげる根拠を知る。 <到達目標> ・血液・リンパ・自己免疫・皮膚・生殖器系の主な疾患の病態診断・治療と回復の促進について理解する。			
授業計画・内容・担当教員			
1 回目	1. 血液・造血器疾患とその治療 1) 赤血球系の異常		講義（竹内）
2 回目	2) 白血球系の異常		講義（竹内）
3 回目	3) 造血器腫瘍 ①造血器腫瘍治療の基本理念		講義（竹内）
4 回目	3) 造血器腫瘍 ②造血器腫瘍治療における支持療法		講義（竹内）
5 回目	3) 造血器腫瘍 ③白血病		講義（竹内）
6 回目	④悪性リンパ腫 ⑤骨腫瘍及び類縁疾患 ⑥多発性骨髄嚢		講義（竹内）
7 回目	4) 出血性疾患 ①血管異常による出血性疾患		講義（竹内）
8 回目	5) 自己免疫疾患 ①全身性エリトマトーデス		講義（竹内）
9 回目	②シェーングレーン症候群 ③ベーチェット病		講義（竹内）
10 回目	2. 皮膚の構造と機能及び疾患とその治療 1) 皮膚の構造と機能		講義（松本）
11 回目	2) 検査と治療処置 ①皮膚的検査法（免疫・アレルギー検査） ②全身療法 ③外用療法		講義（松本）
12 回目	3) 疾患の理解 ①表在性皮膚疾患 ②物理的・化学的皮膚傷 ③感染症 ④全身性疾患に伴う皮膚疾患		講義（嶋津）
13 回目	3. 女性生殖器疾患とその治療 1) 性分化疾患 2) 臓器別疾患		講義（江河）
14 回目	3) 機能的疾患 4) 感染症		講義（江河）
15 回目	5) 乳房の疾患		講義（西前）
16 回目	終了試験		
評価方法	終了試験 筆記 100%：竹内（55%） 松本・嶋津（20%） 江河（15%）西前（10%）		
受講生に対するメッセージ	2 領域の専門医師の講義によって構成されています。その合計点をもって単位認定の判断がなされます。事前事後の学修を行って十分な理解ができるよう取り組んでください。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 4 血液・造血器 医学書院 系統別看護講座 専門分野 成人看護学 9 女性生殖器 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 11 アレルギー・膠原病 感染症 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 12 皮膚 医学書院 皮膚科エキスパートナーシング 改訂第 2 版 南江堂		
参考書			

専門基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数		病態治療論Ⅲ（消化器・口腔・内分泌系） 1 単位 30 時間		
開講時期		1 年次 後期		
担当教員		山中将弘・藤塚秀樹・大石敏弘	実務経験	有
<科目のねらい> 解剖生理で学んだ消化器と口腔・内分泌系の知識を臨床実践に結び付け統合し、特有の疾患を理解する。消化器と口腔・内分泌系の器官が人体のなかでどのような構造をなし、どのような役割を担うかを想起する。その後、その構造や機能が障害された状態（疾患）はどのような状態を示すのか学び、損なわれた機能の回復や失われた機能を補てんするにはどうすればよいか、治療や援助につなげる根拠を知る。 <到達目標> ・消化器と口腔・内分泌系の主な疾患の病態診断・治療と回復の促進について理解する。				
授業計画・内容・担当教員				
1 回目	1. 消化器系の疾患とその治療 1) 食道の疾患		講義（山中）	
2 回目	2) 食道～胃部の疾患		講義（山中）	
3 回目	3) 胃部～腸の疾患		講義（山中）	
4 回目	4) 腸および腸膜疾患		講義（山中）	
5 回目	5) 肝臓の疾患		講義（山中）	
6 回目	6) 肝臓～胆嚢の疾患 7) 膵臓の疾患		講義（山中）	
7 回目	2. 歯・口腔の構造と機能及び疾患とその治療 1) 症状とその病態生理 ①咀嚼障害 ②嚥下障害		講義（藤塚）	
8・9 回目	2) 疾患の理解 ①歯の異常と疾患 ②口腔粘膜の疾患		講義（藤塚）	
10 回目	3. 内分泌系の疾患とその治療 1) 視床下部－下垂体前葉系疾患 2) 視床下部－下垂体後葉系疾患		講義（大石）	
11 回目	3) 甲状腺疾患		講義（大石）	
12 回目	4) 副甲状腺疾患		講義（大石）	
13 回目	5) 副腎疾患		講義（大石）	
14 回目	6) 性腺疾患		講義（大石）	
15 回目	7) 多発性内分泌疾患		講義（大石）	
16 回目	4. 代謝性疾患 1) 糖尿病		講義（大石）	
17 回目	2) 脂質異常症 3) 肥満症とメタボリックシンドローム 4) 尿酸代謝異常		講義（大石）	
評価方法	終了試験 筆記 100%：山中（40%） 藤塚（10%） 大石（50%）			
受講生に対するメッセージ	3 領域の専門医師の講義によって構成されています。その合計点をもって単位認定の判断がなされます。事前事後の学修を行って十分な理解ができるよう取り組んでください。			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 5 消化器 医学書院 系統別看護講座 専門分野 成人看護学 15 歯科・口腔 医学書院 系統別看護講座 専門分野 成人看護学 6 内分泌・代謝 医学書院			
参考書				

専門基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	病態治療論Ⅳ（脳神経・眼科・耳鼻科系） 1 単位 30 時間		
開講時期	1 年次 後期		
担当教員	岩崎正重・児島辰哉・大岩和博 武林悟・中野瑞生・脳神経外科医師	実務経験	有
<科目のねらい> 解剖生理で学んだ脳神経・眼科・耳鼻科系の知識を臨床実践に結び付け統合し、特有の疾患を理解する。脳神経・眼科・耳鼻科系の器官が人体のなかでどのような構造をなし、どのような役割を担うかを想起する。その後、その構造や機能が障害された状態（疾患）はどのような状態を示すのか学び、損なわれた機能の回復や失われた機能を補てんするにはどうすればよいか、治療や援助につなげる根拠を知る。 <到達目標> ・脳神経・眼科・耳鼻科系の主な疾患の病態診断・治療と回復の促進について理解する。			
授業計画・内容・担当教員			
1 回目	1. 脳神経系の構造と機能 2. 症状とその病態生理 ・意識障害 ・高次機能障害・運動機能障害	講義（岩崎）	
2 回目	検査・診断と治療・処置	講義（岩崎）	
3 回目	2. 疾患の理解 1)-1 脳血管障害	講義（岩崎）	
4 回目	1)-2 脳血管障害	講義（中野）	
5 回目	2)脳腫瘍	講義（中野）	
6 回目	3)外傷	講義（脳神経外科医師）	
7 回目	4) その他の疾患、異常	講義（脳神経外科医師）	
8 回目	4. 疾患の理解 1)筋疾患・神経筋接合部疾患	講義（児島）	
9 回目	2) 神経筋接合部疾患	講義（児島）	
10 回目	3)脳・神経系の感染症 4)中毒	講義（児島）	
11 回目	5)てんかん 6)認知症	講義（児島）	
12 回目	5. 眼球疾患とその治療 1)症状とその病態生理 ①視機能に関連した症状	講義（大岩）	
13 回目	2)疾患の理解 ①機能障害 ②部位別疾患 ③外傷 ④全身疾患との関連	講義（大岩）	
14 回目	6. 耳鼻咽喉・頸部の疾患とその治療 1)症状とその病態生理 ①難聴 ②嗅覚障害	講義（武林）	
15 回目	2)疾患の理解 ①耳疾患 ②鼻疾患 ③口腔・咽喉疾患 ④気道・食道・頸部疾患と音声・言語障害	講義（武林）	
評価方法	終了試験 筆記 100%：岩崎（50%）児島（30%） 大岩（10%）武林(10%)		
受講生に対するメッセージ	3 領域の専門医師の講義によって構成されています。その合計点数をもって単位認定の判断がなされます。事前事後の学修を行って十分な理解ができるよう取り組んでください。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 7 脳神経 医学書院 系統別看護講座 専門分野 成人看護学 13 眼 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 14 耳鼻咽喉 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院		
参考書			

専門基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	病態治療論Ⅴ（運動器・腎臓・泌尿器系） 1 単位 30 時間		
開講時期	1 年次 後期		
担当教員	伊藤英人・矢崎尚哉・戸川証・小川莉奈	実務経験	有
<科目のねらい> 解剖生理で学んだ運動器系・腎臓系・泌尿器系の知識を臨床実践に結び付け統合し、特有の疾患を理解する。運動器系・腎臓系・泌尿器系の器官が人体のなかでどのような構造をなし、どのような役割を担うかを想起する。その後、その構造や機能が障害された状態（疾患）はどのような状態を示すのか学び、損なわれた機能の回復や失われた機能を補てんするにはどうすればよいか、治療や援助につなげる根拠を知る。 <到達目標> ・運動器系・腎臓系・泌尿器系の主な疾患の病態診断・治療と回復の促進について理解する。			
授業計画・内容・担当教員			
1 回目	1. 運動器系の疾患とその治療 総括・骨粗鬆症	講義（伊藤）	
2 回目	1. 外傷 1	講義（矢崎）	
3 回目	1. 脊椎	講義（伊藤）	
4 回目	1. 手外科 2 ギプス・松葉杖	講義（矢崎）	
5 回目	1. 関節	講義（伊藤）	
6 回目	1. 手外科	講義（矢崎）	
7 回目	1. 炎症性疾患	講義（伊藤）	
8 回目	1. 腫瘍・先天性疾患	講義（矢崎）	
9 回目	2. 腎疾患とその治療 1) 腎不全と慢性腎臓病	講義（戸川）	
10 回目	2) 急性糸球体腎炎	講義（戸川）	
11 回目	3) 慢性糸球体腎炎	講義（戸川）	
12 回目	4) 尿細管間質性病変 5) 腎移植	講義（戸川）	
13 回目	3. 泌尿器疾患とその治療 1) 尿路・性器の感染症 2) 尿路の通過障害と機能障害 3) 尿路結石症	講義（小川）	
14 回目	4) 尿路・性器の腫瘍	講義（小川）	
15 回目	5) 発生・発育の異常 6) 男性不妊症、男性生殖器疾患	講義（小川）	
評価方法	終了試験 筆記 100%：伊藤・矢崎（50%） 戸川（30%） 小川（20%）		
受講生に対するメッセージ	3 領域の専門医師の講義によって構成されています。その合計点数をもって単位認定の判断がなされます。事前事後の学修を行って十分な理解ができるよう取り組んでください。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 10 運動器 医学書院 系統別看護講座 専門分野 成人看護学 8 腎・泌尿器 医学書院		
参考書			

専門基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	治療論概説Ⅰ 1単位 30時間 (手術療法・救急法・放射線療法)		
開講時期	1年次 後期		
担当教員	小澤紅美・小松千晶・小柴真一 山口智彦・望月亮三・松浦雅	実務経験	有
<科目のねらい> 近年の医学の進歩はめざましく、それぞれの分野に大きな変化が起きている。医療を取り巻く環境が変化している中、質の高い医療サービスを提供することが看護師には求められている。それぞれ専門分野の医師・看護師から手術療法・創傷管理・救急処置・熱傷・放射線治療についての講義を受ける。 <到達目標> ・疾病の回復を促進する各治療法の原理や方法について理解する。			
授業計画・内容・担当教員			
1回目	1. 手術療法とは 2. 手術侵襲と生体の反応 1) 手術侵襲とは 2) 侵襲に対する生体反応 3) サイトカインによる生体調節機構 4) 手術侵襲の評価	講義 (小澤)	
2回目	1. 麻酔法 1) 麻酔とは 2) 麻酔の種類 3) 術前管理 4) 術中管理 5) 術後管理 2. 呼吸管理	講義 (小澤)	
3回目	1. 創傷治癒過程 2. 手術創部の処置	講義 (小松)	
4回目	1. 現場で遭遇する創傷 1) スキン-ケア 2) 医療関連機器圧迫創傷 3) 失禁関連皮膚炎	講義 (小松)	
5回目	1. 褥瘡患者の看護 1) 皮膚の構造 2) 褥瘡ケアの実際	講義 (小松)	
6回目	1. 主要病態に対する救急処置 1) ショック 2) 外傷 3) 熱中症 4) 中毒	講義 (小柴)	
7回目	1. 主要病態に対する救急処置 1) 脳死 2. 救急患者の観察とアセスメント 1) ABCDE アプローチ	講義 (小柴)	
8回目	1. 一次救命処置 1) 気道確保 2) 胸骨圧迫	講義・演習 (松浦)	
9回目	1. 一次救命処置 3) 人工呼吸 4) 除細動	講義・演習 (松浦)	
10回目	1. 重症熱傷 2. 創傷管理法	講義 (山口)	
11回目	1. 放射線医学の成り立ちと意義 2. X線診断	講義 (望月)	
12回目	1. CT 2. MRI	講義 (望月)	
13回目	1. 超音波検査 2. 核医学検査 3. IVR・血管造影	講義 (望月)	
14回目	1. 放射線治療総論	講義 (望月)	
15回目	1. 放射線による障害と防護	講義 (望月)	
評価方法	筆記試験 100% (小澤 15% 小松 20% 小柴 15% 松浦 10% 山口 10% 望月 30%)		
受講生に対するメッセージ	病態治療論で学習した内容を想起しながら授業に臨んでほしい。また、この授業での学びを講義・実習に活かせるよう、積極的に授業に取り組んで欲しい。		
テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学12 皮膚 医学書院		
参考書			

専門基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数		治療論概説Ⅱ（リハビリテーション） 1単位 15時間		
開講時期		2年次 前期		
担当教員		兵永志乃・中川貴博・杉山稔子		実務経験 有
<科目のねらい・到達目標> ・リハビリテーションの概念と技術を理解する。				
授業計画・内容・担当教員				
1回目	1. リハビリテーションの定義と概念 2. リハビリテーションの分野 3. リハビリテーション医療の提供 4. リハビリテーションの看護概論 5. 疾病・障害・生活機能の分類 6. リハビリテーションの種類と特徴		講義・演習（兵永） 理学療法士	
2回目	1. リハビリテーションの実際 （1）理学療法総論 （2）整形外科疾患に対する理学療法		講義・演習（兵永）	
3回目	1. リハビリテーションの実際 （3）脳血管疾患に対する理学療法		講義・演習（兵永）	
4回目	（4）循環器疾患に対する理学療法 （5）呼吸器疾患に対する理学療法			
5回目	1. リハビリテーションの実際 （1）作業療法の定義（総論） （2）脳血管疾患に対する作業療法		講義・演習（中川） 作業療法士	
6回目	1. リハビリテーションの実際 （3）高次機能障害に対する作業療法 （4）自助具を考えてみよう （5）整形外科疾患に対する作業療法		講義・演習（中川）	
7回目	1. リハビリテーションの実際 （1）コミュニケーション障害について ①失語症 ②構音障害		講義・演習（杉山） 言語聴覚士	
8回目	1. リハビリテーションの実際 （1）摂食嚥下障害		講義・演習（杉山）	
評価方法	筆記試験 兵永（40%） 中川（30%） 杉山（30%）			
受講生に対するメッセージ	解剖生理を復習し、それぞれの臓器の正常な機能を理解して、講義に臨んでほしい。また、患者像を捉える際、医療的知識だけでなく、社会的背景をくみ取れるようリハビリテーションの概念を学んでほしい。			
テキスト	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院			
参考書				

専門学分野 授業計画

授業科目及び時間数	薬理学 1 単位 30 時間	
開講時期	2 年次 前期	
担当教員	齋藤興輝	
<科目のねらい> 疾病の治療、予防、検査などに使用される各薬剤の分類、特徴、作用機序、副作用等を学ぶことで、医療現場に出た際にそれらを適正使用し論理的なアセスメントを行うことができるだけの知識を身につける。 実臨床で使用頻度の高い薬剤の各論や看護上の注意点については特に掘り下げて講義し、実習で関わる実際の薬物治療とリンクさせて体系的に知力と考察力を向上させる。 <到達目標> ・疾病の治療、予防、検査に使用される各薬剤の分類、特徴、作用機序、副作用を理解する。		
授業計画・内容・担当教員		
1 回目	<第 1 ～ 2 章>薬理学概論	講義
2 回目	<第 3 章>抗感染症薬	講義
3 回目	<第 4 章>抗がん薬	講義
4 回目	<第 5 ～ 6 章>免疫治療薬・抗アレルギー薬・抗炎症薬	講義
5 回目	<第 7 章>末梢での神経活動に作用する薬物	講義
6 回目	<第 8 章>中枢神経系に作用する薬物	講義
7 回目	<第 9 章>循環器系に作用する薬物	講義
8 回目	<第 10 章前半>呼吸器に作用する薬物	講義
9 回目	<第 10 章後半>消化器に作用する薬物	講義
10 回目	<第 11 章>生殖器系・物質代謝に作用する薬物	講義
11 回目	<第 12 章>皮膚科用薬・眼科用薬	講義
12 回目	<第 13～14 章>救急の際に使用される薬物・漢方薬	講義
13 回目	<第 15～16 章>消毒薬・輸液製剤・輸血剤	講義
14 回目	その他の薬剤・まとめ	講義
15 回目	終了試験	試験
評価方法	筆記試験 90%・平常点(出欠・受講態度など)10%	
受講生に対するメッセージ	医療の多くの場面において薬はとても重要な役割を担うため、その効果や仕組みを理解することで専門的視野が大きく広がる。それにより看護業務の質が高いものになり、よりやりがいを持って行えるようになるはずなので是非積極的に学んで欲しい。	
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 3 薬理学 医学書院	
参考書		

専門基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	総合医療論 1 単位 15 時間		
開講時期	1 年次 前期		
担当教員	石山純三・栗原直子・齋藤彩香・安藤章	実務経験	有
<科目のねらい> 保健医療・看護の歴史、現状を知り、直面する現代の医療の課題をさまざまな論点や新しい視点で学ぶ。これから看護学を学ぼうとする皆さんが、幅広い視野を持ち新時代に求められる看護師像について考えられるきっかけとなることをのぞむ。 また、科学的根拠に基づいて行われる医療の特徴を活用し、人々の健康を守り増進するためには、医療職が共通の知識をもって検討することが求められる。その1つが臨床検査である。医療の現場で活躍する看護師にも臨床検査の意義や目的を理解しデータの解釈につなげる基礎力の育成ができることをねらいとする。 <到達目標> 1. 保健医療・看護の歴史、現状を知り、直面する現代の医療の課題を理解する。 2. 臨床検査の意義や目的を理解する。			
授業計画・内容・担当教員			
1 回目	1. 医療と看護の原点 1) 命について考える 2) 健康とは 3) 病の体験 4) 癒しの行為と癒しの地	講義（石山）	
2 回目	2. 医療の歩みと医療観の変遷 3. 私たちの生活と健康 1) もし私たちが病気やけがをしたら 2) 私たちの生活と保健・福祉行政 3) 疾病の一次予防と健康増進	講義（石山）	
3 回目	4) 少子高齢化社会と地域包括ケア 5) 障害者のノーマライゼーションとインクルージョン 4. 科学技術の進歩と現代医療の最前線	講義（石山）	
4 回目	5. 現代医療の新たな課題	講義（石山）	
5 回目	6. 医療を見つめ直す新しい視点 7. 保健・医療・福祉の近未来像	講義（石山）	
6 回目	1. 臨床検査の実際（生理機能検査について）	講義（安藤）	
7 回目	1. 臨床検査の実際（採血、一般検査、細菌検査）	講義（栗原）	
8 回目	1. 臨床検査の実際（医療安全、病理検査）	講義（齋藤）	
評価方法	終了試験 筆記 100%：石山(70%) 栗原・齋藤・安藤（30%）		
受講生に対するメッセージ	主体的に講義にのぞんでほしい。		
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 1 医療概論 医学書院 系統看護学講座 別巻 総合医療論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院		
参考書			

専門基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	公衆衛生学Ⅰ 1単位 15時間 (基本理念)	
開講時期	1年次 後期	
担当教員	川島美昭	
科目のねらい 公衆衛生の理念、人々の健康に対する自然環境・社会環境から受ける影響を理解するとともに、疾病を予防し、健康増進のための様々な政策や施策を実践することの重要性を学ぶ。		
到達目標 公衆衛生の理念を理解する。 人々の健康に関係する様々な政策や施策の実践と、その重要性を理解する。		
授業計画・内容・担当教員		
1回目	公衆衛生の理念と理解 公衆衛生とは・公衆衛生活動の特徴・公衆衛生の歴史 健康の概念・健康の定義・ヘルスプロモーション	講義
2回目	公衆衛生の活動対象 ポピュレーションアプローチ・ハイリスクアプローチ 公衆衛生の仕組み 地域保健法・健康増進法・保健所・保健センター	講義
3回目	集団の健康 保健統計・国勢調査・人口静態・人口動態・出生 死亡・死因・平均余命・平均寿命・健康寿命 疫学的因果関係・疫学的手法・臨床疫学とエビデンス	講義
4回目	環境と健康1 地球規模の環境と健康 地球温暖化・オゾン層の破壊・水質汚染 大気汚染・アスベスト・土壌汚染・放射性物質	講義
5回目	環境と健康2 身のまわりの環境と健康 食品衛生法・食品の安全対策・室内環境 一般廃棄物と産業廃棄物・感染性廃棄物	講義
6回目	感染症とその予防対策1 感染症の成立要因・感染症の流行・予防・予防接種 感染症法・院内感染の予防・人獣共通感染症 公衆衛生上重要な感染症・結核・HIV・AIDS	講義
7回目	感染症とその予防対策2 食中毒の種類と予防 国際保健 国際保健の担い手・国際保健の共通目標	講義
8回目	終了試験	
評価方法	筆記試験 100%	
受講生に対するメッセージ	授業はテキストとプリントを使用して進めます。あらかじめ、テキストを予習して臨んでください。また、健康・保健・環境などに関係するニュースなどが数多くメディアから発信されているので、その背景にある事柄も含めて興味を持って見聞きしてください。	
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度② 公衆衛生 医学書院	
参考書		

専門基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	公衆衛生学Ⅱ 1単位 15時間 (公衆衛生活動の実際)	
開講時期	2年次 前期	
担当教員	川島美昭	
科目のねらい 地域や組織内での公衆衛生活動について、時代とともに変化するライフステージでの人々の健康に及ぼす影響について学び、具体的な政策や施策を理解する。		
到達目標 地域や組織内での公衆衛生活動から、各ライフステージでの人々の健康に及ぼす影響を知る。 健康を守る具体的な政策や施策を理解する。		
授業計画・内容・担当教員		
1回目	地域における公衆衛生の実践1 公衆衛生看護・保健指導・訪問指導・健康教育 母子保健統計・死産・周産期死亡・乳児死亡 健やか親子21(第2次)・母子保健法・母子健康手帳 母体保護法	講義
2回目	地域における公衆衛生の実践2 成人保健 疾病予防・健康日本21・生活習慣病予防 特定健康診査・特定保健指導・喫煙・がん対策	講義
3回目	地域における公衆衛生の実践3 高齢者保健 高齢化社会・地域包括ケアシステム 精神保健 精神保健福祉法・障害者総合支援法・自殺対策基本法	講義
4回目	地域における公衆衛生の実践4 歯科保健 口腔保健・齲歯予防・口腔ケア 障害者保健・難病保健 難病法・指定難病・発達障害支援法	講義
5回目	学校と健康 学校保健安全法・学校保健活動・健康診断・健康相談 学校環境衛生・学校感染症	講義
6回目	職場と健康 労働安全衛生法・業務上疾病の予防・労働衛生の3管理 ワークライフバランス・男女共同参画	講義
7回目	健康危機管理・災害保健 健康危機管理体制・災害時の医療体制 災害時の保健活動	講義
8回目	終了試験	
評価方法	筆記試験 100%	
受講生に対するメッセージ	授業はテキストとプリントを使用して進めます。あらかじめ、テキストを予習して臨んでください。また、健康・保健・環境などに関係するニュースなどが数多くメディアから発信されているので、その背景にある事柄も含めて興味を持って見聞きしてください。	
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度② 公衆衛生 医学書院	
参考書		

専門基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	医療福祉論Ⅰ 1単位 30時間 (基本概念と制度)		
開講時期	2年次 前期		
担当教員	手塚至乃部	実務経験	有
<科目のねらい・到達目標> ・社会福祉の発達と理論を学び、保健医療福祉に関する基本的制度を理解する。			
授業計画・内容・担当教員			
1回目	1. 社会保障制度と社会福祉 1) 社会保障の概念、目的、機能、体系、内容 2) 社会福祉の法制度 3) 社会福祉サービスの内容と提供の仕組み	講義	
2回目	1. 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向 1) 現代社会の変化 2) 社会保障・社会福祉制度の動向	講義	
3回目	1. 医療保障Ⅰ ・医療保障制度の構造、体系 ・健康保険と国民健康保険	講義	
4回目	1. 医療保障Ⅱ ・高齢者医療制度 ・保険診療のしくみ	講義	
5回目	1. 医療保障Ⅲ ・公費負担医療 ・難病、小児慢性特定疾患など ・国民医療費	講義 グループワーク	
6回目	1. 介護保険Ⅰ ・介護保険の歴史 ・介護保険の概要 ・静岡市の介護保険の申請の仕方と実際	講義	
7回目	1. 介護保険Ⅱ ・介護保険サービスとケアプラン ・地域支援事業、地域包括支援センター・介護保険の財政	講義	
8回目	1. 所得保障 ・所得保障制度の概要 ・年金保険制度のしくみ	講義	
9回目	1. 労働保険制度 ・労働者災害補償保険制度 ・雇用保険制度	講義	
10回目	1. 公的扶助Ⅰ ・生活保護原理・原則 ・生活保護のしくみ	講義	
11回目	1. 公的扶助Ⅱ ・低所得者対策 ・貧困、生活困窮者支援について	講義	
12回目	1. 高齢者福祉 ・老人福祉サービス・認知症高齢者対策・高齢者虐待の対策	講義 事例検討	
13回目	1. 障害者福祉 ・障害者の定義と分類 ・障害者福祉の概念 ・障害者福祉制度と変遷、関連施策 ・障害者虐待の対策	講義	
14回目	1. 児童家庭福祉 ・児童の定義 ・母子保健法、母子健康手帳など ・児童虐待の対策 ・関連施策、DV、ひとり親対策、子どもの貧困等	講義	
15回目	終了試験		
評価方法	筆記試験 100%		
受講生に対するメッセージ	社会保障制度を学び、実際に使い方を知る。 静岡市の社会福祉の現状と社会資源の知識を身につける。		
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度3 社会保障・社会福祉 医学書院		
参考書	厚生労働白書 厚生労働省 HP から閲覧可能		

専門基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	医療福祉論Ⅱ 1 単位 15 時間 (制度活用の実際)		
開講時期	3 年次 前期		
担当教員	尾上華子	実務経験	有
<科目のねらい> 医療現場における社会福祉制度の活用方法の実際について学ぶ。 <到達目標> 1. 医療・看護と社会福祉との関連がわかる。 2. さまざまな職種間での連携の重要性を理解する。			
授業計画・内容・担当教員			
1 回目	1. 社会福祉援助とは ・援助とは ・「生活（ライフ）」の三側面 ・社会福祉援助技術の分類	講義	
2 回目	1. 個別援助技術（ケースワーク） ・生活援助の特徴 ・生活支援の展開過程 ・ナラティブ・アプローチ、その他のアプローチ方法	講義	
3 回目	1. 面接技法 事例検討会、ケア会議、担当者会議の進め方	グループワーク	
4 回目	1. 集団援助技術（グループワーク） ・集団の特性 ・集団援助の独自性 ・集団援助の展開過程	講義 グループワーク	
5 回目	1. 間接援助技術と関連援助技術 2. 社会福祉援助の検討課題 ・倫理のディレンマ ・エンパワメント、アドボカシー、セルフヘルプ・グループ	講義	
6 回目	1. 連携の重要性 ・医療提供システムと変化 ・病診連携、官官連携、 ・医療ソーシャルワーカーとは	グループワーク	
7 回目	1. 連携の場面とその方法 ・職種間連携とは ・医療機関における連携 ・地域包括ケアシステム	グループワーク	
8 回目	筆記試験		
評価方法	筆記試験（1 時間） グループワークの内容等の総合評価		
受講生に対するメッセージ	医療福祉論Ⅰを復習して学びましょう。 事例を通して患者・利用者の課題を理解し解決方法や利用サービスを考察しましょう。 多職種連携の意義や方法を身につけましょう。		
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 3 社会保障・社会福祉 医学書院		
参考書			

専門基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数		関係法規 1 単位 30 時間
開講時期		2 年次 前期
担当教員		佐々木隆志・松永 靖
＜科目のねらい・到達目標＞ ・人々の健康を守るために必要な保健医療・看護に関する法規について学ぶ。		
授業計画・内容・担当教員		
1 回目	1. 法規の概念と厚生行政のしくみ・衛生法の分類	講義（佐々木）
2 回目	1. 保健師助産師看護師法 1) 法とその付属法令 2) 制度と改正の経緯 3) 目的・定義	講義（佐々木）
3 回目	4) 免許 5) 業務 6) 守秘義務	講義（佐々木）
4 回目	1. 看護師等の人材確保の促進に関する法律の概要	講義（佐々木）
5 回目	1. 医療法 1) 目的・理念・定義・公告 等	講義（佐々木）
6 回目	2) 病院管理監督・機能分化 等	講義（松永）
7 回目	1. 関係資格法 1) 医療関係資格法 （1）医師法 等	講義（佐々木）
8 回目	2) 保険医療福祉資格法 3) 医療を支える法	講義（佐々木）
9 回目	1. 保健衛生法 1) 共通保健法	講義（佐々木）
10 回目	2) 分野別保健法 3) 感染症に関する法律	講義（佐々木）
11 回目	1. 薬務法	講義（佐々木）
12 回目	1. 社会保険法	講義（佐々木）
13 回目	1. 労働法と社会基盤整備	講義（佐々木）
14 回目	1. 環境法	講義（佐々木）
15 回目	終了試験	
評価方法	筆記試験 100%	
受講生に対するメッセージ	2 年次生を対象とした必修科目である。看護職の責任と役割を自覚して講義に臨んでほしい	
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 4 看護関係法令 医学書院	
参考書	看護六法 第一法規（看護行政研究会）	